

「誕生県営空港 基地依存の構造」

上記は朝日新聞が1月23日から3回連載した特集のタイトルである。23日の紙面から、名古屋空港と小牧基地について紹介しておこう。「前身の旧陸軍小牧飛行場は44年に完成し、終戦後に米軍が接收。民間機の利用も始まり、60年、旧運輸省管理の名古屋空港が設置された。航空自衛隊小牧基地の開設は59年で、戦闘機部隊が展開していたが、墜落事故などをきっかけに反対運動が盛り上がり、78年、三沢基地に移転。現在の第1輸送航空隊が創設された。中部国際空港に定期便をほぼ一元化し、国交省が管理から撤退するのに伴い、愛知県知事が02年、県営化を表明した。」2月17日、中部国際空港の開港と同時に、名古屋空港は国管理の第2種空港から愛知県営となる。

写真は現在の名古屋空港の送迎用デッキと、そこから写した航空自衛隊小牧基地である。拙著でも指摘したように、名古屋空港をめぐる問題は新空港と切り離せない。新空港に光があてられがちだが、県営名古屋空港の将来は明るくない。開港前から赤字が懸念されているだけでなく、特集記事が指摘するように「基地依存の構造」という深刻な問題がある。

23日付の紙面でも「収入、自衛隊頼み」と大きな見出しがつけられ、「自衛隊の海外展開の最前線を、愛知県が支える。その先に何があるのか」と問題を提起している。



(1月27日 記